



全てなるようにしてなってきた人生

滝町昌寛（たきまちまさひろ）さん

福知山市大江町 在住

芸術家としてマッチのパッケージやTシャツのプリントデザイン、生業として農作業や猟を行う。今後は木彫りにも取り組む予定。1カ月に1度開かれる「福知山ワンダーマーケット」で作品の展示及び販売をしている。

－福知山市大江町に移住したきっかけ

友人の農業の手伝いをしていたとき、「自分も農作業をしたい。」と農作業ができる場所に移住したいという気持ちが生まれました。実家（京都市）から離れ一人暮らしをするにあたって、実家から遠すぎず近すぎない環境を一番の条件として移住先を探し、大江町にたどり着きました。

－移住者から見た大江町は？

都会とは違い、地域や自治会での役割が多いです。初めは面倒くさいと思っていましたが、今ではだいぶ慣れてきました。こちらでは、活動することですぐに知り合いができるので、同じ価値観を持った芸術家とも出会うことができました。そのような繋がりができやすいので、今では自分でも出来ることがあれば進んで参加するようになりました。

以前は、都会にあるモノや作品や自分自身を美化しなければいけないという気負いがありました。そういった環境に自分は合っておらず、正直しんどかったです。大江町は、モノや人が自然でありのままな雰囲気、毎日楽に過ごせています。



※滝町さんが捕獲したシカの革



－作品のアイデアや発想

作品のネタは、普段暮らしている中で面白いと感じたことや景色をメモし、それを参考に思い出してつくったり、頭にひっかかっているものを形にして作品に繋げています。

都会では、多くのモノや情報からわき出るインスピレーションにより、作品を作るアーティストが多いように感じます。大江町のように自然が豊かなところでは、自然のスピリチュアルを感じて作品を作ることができるという違いがあると思います。また、田舎の方が作業中に雑念や妄想なく没頭でき、作業しやすい環境だと考えています。



－人生観や考え方

全てなるようにしてなってきた人生だと思っています。確かに、人生の選択はたくさんありましたが、後から振り返ってみると、一本道しかないように感じます。大江町に住んだのも作品作りも、落ち着くところに落ち着いただけだと考えています。



子どものころから老子・荘子が好きで、「自然な生き方、受け身の生き方で、目標なくいかに自分になれるか、近づけられるか」を常に考えています。また、人生を旅として捉えているので、一生そこに住み続けたり、何かに囚われて留まる必要はないとも思います。「いかに自分になれるか、近づけられるか。」だけを考えて暮らしています。

編集長感想・高瀬樹（福知山公立大学地域経営学部地域経営学科2年）

都会と比べて、田舎では自分を美化せず、ありのままの自分でいられるというお話しから、田舎の方がやりたい事を実現しやすい面もあるのだと感じました。これまで、都会の方がやりたい事を実現しやすいという先入観がありましたが、滝町さんへのインタビューを機に、地方の可能性も考えるきっかけになりました。